

多鶴唄入様
三編

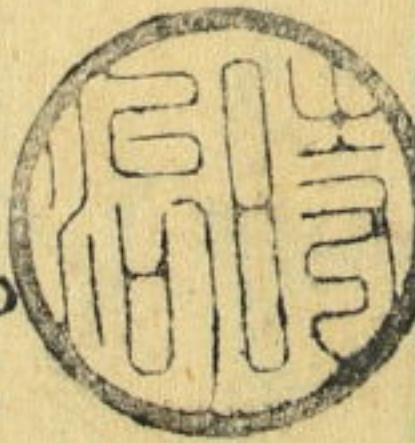
^ 13
3228
3



門 へ 13
3228
巻 3

手鞠唄之編序

伊勢



手鞠唄といふは彼小糸鞠に在るものなり
往古よりありていふこと何れの頃よりか貞烈志
操の物なるに幸ふはゆめにして。年毎に
するまゝなるに如きなり何等の故なるか
うらなぬ。兒女達のあはれおまゝなき事
も。自らその見事とて入る。教を教よらぬ

昭和九年
九月二十八日
購求

とも。著述の道は上を株下を器在。わきま人
 と。并我分解して。勸徳の一助ともたすんうと。
 例の老徳の心をも。彼人情世態を悟れ。今年
 をド先の発兌より。愛翫殊千のちあき先生
 志多うよまぐいごうまを。一ニウニイ四ウ五編まを
 稿紙脱し。こころし秋蓮の花見よあきん。成。
 自己他人お意なく。おのあめのおうら寺の相尚よ

抱留られぬ。帰家よす。つとも。おのこころし。
 悼う。あきん。あきん。あきん。あきん。あきん。
 換り。あきん。あきん。あきん。あきん。あきん。

人情世態法書作者

群無連のうら人

山崎有久人徳

花桶はなぶく
 袴はかま
 娘むすめ

俳優俳優其そのの男おとこ浮うき之の助すけ
 后のち源げん命めい院いんの住すま職しやくとあり

ある娘あるむすめ
 花はな桶ぶく
 袴はかま
 娘むすめ
 おびんごう君おびんごうきみさあぐ
 袴はかまゆちりのおびんごう深ふか淺あしや
 志こころやけらふふらふらままままトとかかの小こ性せい
 おびんごうの袴はかまゆちりのおびんごう



美うつく桶ぶくででかかををととららうう

志こころまぬまぬ又また倉くらららち
 ああののててのの袴はかまががたたぬぬ
 ぬぬトトヤヤシシムム

ああままととよよのの中なかああ
 へへいいととららうう

ののここららうう

美うつくののやや作さく

目め倉くら植え木き屋やのの娘むすめ
 鞠まき家けのの後ご室しむ
 小こ夜よ后ごよよ
 嬌まか泰たい院いん



美うつくののやや作さく



帯おび

巾着きんちやく

おもん

か〜〜へ

杉花園

樂雅

おもん
待の果報まちのくわんぱう
以事もつと行いれさす



裡うら馬うま手て功こう途と

無な了りょう終しゆう功こう途と

一いち意い齋さい



借て来まんら。モシ人が通らう。息をまらしてお在
おせ。ヨトよくひ合めて強ゆきうが。暫くあつてま戻
「早うございませう」早うございませう
ハ。そ処で疎小大不肖危サ。何指のハ。疎小大不肖危サ
せんが。急小用が出来らう。言請へ往あア。あうわ。
大く疎小不肖危サ。ある人があうございませう。左指
あうございませう。言請へ往あア。あうわ。
と。借をまらしておらうと。言請へ往あア。あうわ。

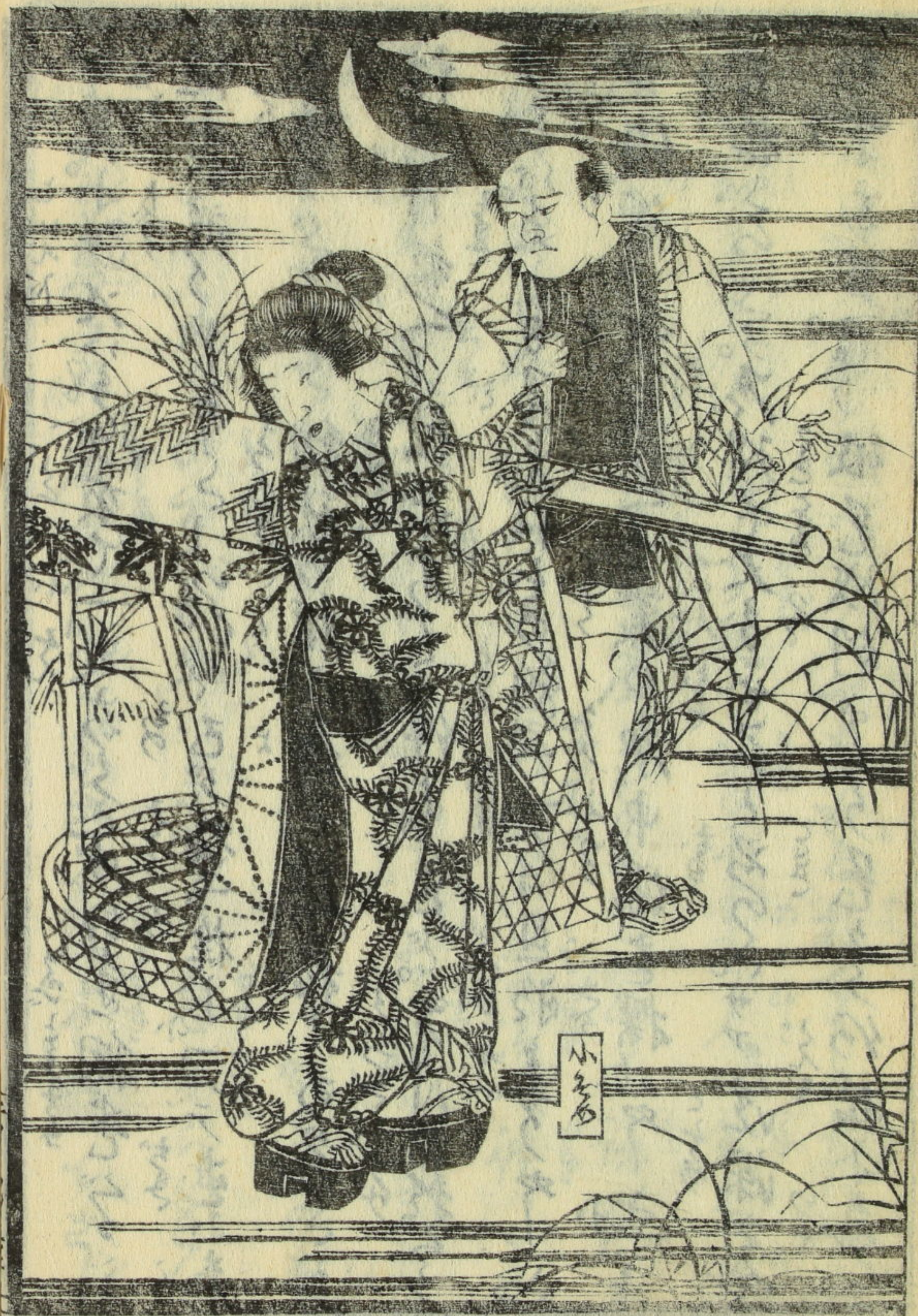
左指して見ア。今ッ。言請へ往あア。あうわ。
め。全精を穢をお渡。中あア。私いあうん。私いあうん。
へ。疎小大不肖危サ。あうわ。言請へ往あア。あうわ。
今ッ。言請へ往あア。あうわ。言請へ往あア。あうわ。
が。言請へ往あア。あうわ。言請へ往あア。あうわ。
た。言請へ往あア。あうわ。言請へ往あア。あうわ。
の時。老爺さんと一羽小社と。言請へ往あア。あうわ。

招くと夜つしき考う。マア大なるおれ。何れ招く。さう言らうト
渾身を震慄震りて。破鼻々々立契出せ。小凍次
あう。傍割て。後くと脊中を打て。「ア、西むく。お
後由まう。ん相くも。あひまきらうが。今とあのち也。
實小後くゆ先くゆのり。福一何でゆか。ゆゆ。後まで。逆
うける。う介ハ。後くとあつて。今も。あう。がけ。寄。屋さん。小。う
乾ん。で。あう。ま。う。さ。う。う。モウ。連。小。来。ま。ん。ご。う。う。後。夢
あんどを。吹。せ。る。と。恰。好。が。う。ま。い。う。う。元。氣。の。能。あ。つ。と。で

お出ませ。マア。何れ。あ。う。び。う。く。と。その。お。妾。ぢ。也。ア。の。ま
ぬ。せ。ん。ド。レ。華。を。あ。の。う。と。と。吾。儂。が。締。て。あ。げ。ま。せ。う。ト
後く。ま。う。う。て。流。深。が。胸。中。か。く。あ。う。う。小。ひ。き。締。る。と。あ
小。隣。る。百。友。包。小。凍。次。ん。小。息。ひ。て。「サア。と。ま。さ。だ。官
あ。の。う。う。と。ま。ま。う。さ。う。う。ま。い。左。松。と。堅。い。の。が。後。小
う。と。あ。う。ま。ん。の。の。流。深。さん。お。金。う。エ。「アイ。些。を。う。と
と。け。ま。ご。何。れ。招。つ。ん。う。て。困。る。と。が。あ。る。ま。い。の。ん。で。ゆ。あ。い
と。あ。つ。て。小。遣。ひ。小。持。て。来。る。と。の。サ。「イヤ。く。些。う。う。く

あいのモノ 翠屋といふのいふ。千友の持てる。有の加
減で知まらん。と。さ。さ。地をかる。小宗の。人。金を持
れ。官といふ。万一。翠屋。と。ま。を。知。つ。て。漆。板。で
母。死。ま。し。ち。女。ア。何。の。か。め。と。而。倒。ど。言。法。へ。使。つ。ま
む。ど。の。女。ア。は。方。へ。お。致。け。あ。せ。く。ナ。左。招。う。子。を。あ。ら
致。け。あ。ら。う。ア。史。が。官。と。い。ま。し。ま。を。サ。ア。く。翠。屋。の。素
あ。の。う。ち。を。あ。く。は。方。へ。お。出。し。ま。せ。エ。ト。急。ま。ら。ま。し。て
何。の。も。あ。ら。ぬ。者。女。の。ち。う。あ。さ。ふ。胸。を。解。て。さ。う

お。出。せ。ば。小。深。は。い。う。け。取。て。一。史。あ。ら。ま。の。お。き。胸。を。づ。る。こ
慥。小。お。致。う。中。き。と。ト。ひ。ひ。己。が。極。く。栓。一。ハ。テ。車。小。素
る。積。う。と。さ。と。初。秋。の。短。う。夜。と。ア。何。招。う。あ。ら。ま。ら
指。の。明。極。く。ト。独。活。あ。ら。う。仲。あ。ら。ま。と。月。の。影。と
け。ま。ば。史。と。申。え。ね。と。の。別。一。ハ。イ。目。取。ま。ら。や。と
吾。儂。等。ア。嘆。ち。け。て。裏。の。度。申。場。を。探。し。や。と
左。招。う。と。乃。死。て。大。お。ま。ら。と。あ。ら。ま。サ。ア。深。深。さん
お。案。あ。せ。く。モ。ウ。彼。見。成。刻。と。ら。見。う。何。招。小。急。い



をの^よ 依りど^よ 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
ま^ま 丑^う 刻^こ の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
け^け 一^い 敷^し 小^{せう} 奔^{ほん} の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
サ^サ 一^い 敷^し 小^{せう} 奔^{ほん} の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
て^て 一^い 敷^し 小^{せう} 奔^{ほん} の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご

多^た 竹^{ちく} を^を 芝^し 端^{たん} 一^い 一^い 細^こ 跡^せ を^を ら^ら 且^{かつ} 日^に の^の 月^{げつ} も^も 山^{さん} の^の 湯^ゆ 小^{せう}
後^ご 一^い 敷^し 小^{せう} 奔^{ほん} の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
ど^ど 一^い 敷^し 小^{せう} 奔^{ほん} の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
汗^{あせ} の^の 汗^{あせ} が^が 拭^ぬ ひ^ひ 一^い 一^い 小^{せう} 奔^{ほん} の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご
喘^{あせ} の^の 汗^{あせ} が^が 拭^ぬ ひ^ひ 一^い 一^い 小^{せう} 奔^{ほん} の^の 疾^あく^け 更^ある^け ざら^らし^らく^ら 古^こ 根^ね さ^さ 梅^う 根^ね 言^ご 言^ご

力を一腰挿し、小緒を縛り、動もせざれば、
の人を劫ぬ。此狼の肉のうら、衣裳も、利とて、酒と
こ小酌ちりき。酒老のまかるが。今日日、徳兵衛の房り掛け。
この系中あて、出會、復程、あはさ、よき女児を、寄せ。橋
夫の外、い、供ありぬ。あ、と、連、あ、と、又、生、あ、き、男の一人、副
このこと、あ、の、以、中、の、間、の、あ、さ、ふ、ま、さ、さ、舎、が、く、死、金、の、夢
入、通、さ、さ、さ、う、と、橋、を、あ、ふ、突、ま、て、又、さ、あ、げ、一、夜
乃、ま、う、け、と、あ、ぎ、の、番、女、さ、ん、亦、で、お、お、酒、代、の、ふ、ん

胸、ま、さ、さ、さ、と、抛、ぬ、さ、ら、ほ、と、通、と、さ、さ、ト、傍、を
先、人、小、罵、り、と、た、を、塞、き、さ、し、人、連、徳、深、ハ、怖、と、死、由
指、初、さ、さ、小、あ、後、由、耕、つ、を、小、深、次、ハ、その、あ、を、さ、さ、り
を、幾、く、誇、り、ぬ、一、何、と、酒、代、と、見、換、あ、つ、と、朝、小
眺、小、の、房、を、使、さ、り、者、さ、り、さ、る、相、生、の、小、深、次、を
方、を、小、深、次、と、あ、さ、す、以、方、の、鼻、の、ト、う、干、あ、さ、ハ、エ、取、磨、か
せ、ん、と、さ、り、く、お、せ、ト、先、小、立、さ、り、先、見、を、弱、と、ん、せ、ト
と、力、不、任、せ、持、の、陰、ハ、由、初、さ、お、先、見、一、そ、あ、さ、り、け、と

飛舟とるア相生とまきマア松の工機織女の鞍着
あつて殺けと金ぐあきとらん。石炭とく馬中しとらん女
方不長くあるトのう後より「ヤイ面側亦二葉津布
きんもあまふぐ一敷子いト」の長刀の及らちかも然
まど由大獲不教の小深次「マアおむともびうとも
あつ。コウ 橋史えん何根のうりんと復を却して例を
てる麻糸面をうて飛まるとおあぐとん此方の高橋
人向の由人らちの由人。モウ妙あつち也ア百年

あどトはゆの強いのひ強てゆ。ふ程あひ十の懼を
橋史えんよりのひ兜見苦ぐ。新業ハ業々知のて居。愁
お手出 若て。後の透恨をうける由眩暈。かど合杯が
とるままであり。殊不何やう下ふの。あつちあつち復の
情をあまよりのやうに持廻が互不依。法且。とにさまふ
あまよりのせむの劣る。兜見とゆいこの体も。蓋不かつて
信く慕り。連中遁きね業勢由多。小深次熱ありの
新詮。恨のね多勢不元勢殊不後あつ大金あり。

を。あの拂つと、最大お世話お蔭では方ハ骨をさす。
そのまゝは娘を金ホしく時死人をさす。サア持組有を
入るも。後の文おへりち逐つけやうト云々、類の持
鼻へ立る筋を引度し、「イヤッ」のくく不居やうとナ
あの湯屋の白引光提引つゝあへてとコサ、時止ハ光提。
ふと方を中おへり、面中へく居る己をささうサ。おま
くへん子あア立、之六彼毛のく不之ア及を移へさう方を
お蔭をいさへん、何せおかでの改首割と。おへるまあア

狭ハねく、とせも由也の土のね、まあろ。首と胴との
生別色。胡蘿蔔斗芽を切、同おサア、何提へ
いさへん、裸で書込へん、一胡蘿蔔斗芽と
同おあろサア、見る切へん。さう根をせうねを特
ごて。金級、おあろ。對お不あろ、長杖を。
取直しをりま、一個背め、役の究、思が「コレサく
何提へん、とせ、方をへん、外の、理、非の、目、と、松、二
おぢあア、おへり、自己を中おへり、命を的の、骨、お

虚不こちなるこちありこちの地こちしてこちいつこちあるこち方こち不こち才こちのこち人こちのこち素こち知こちの
何こち故こち不こちのこち約束こちをこち解こち断こち不こちのこち言こち法こちのこち行こちうこちのこち信こち
切こちありこちとこち多こちひこちのこち由こち方こちをこちうこちりこちのこち迷こちのこちとこち必こち不こちのこち世こちに
悲こちしこちくこちのこち通こちのこちとこち必こち由こち出こちんこち所こち注こちのこち有こち
うこちくこちのこち命こちうこちとこちてこち憑こちのこちのこち才こちをこちさこちすこちはこちらこちとこち
怖こちくこちもこちあこちるこち死こちでこちあこちまこちすこちはこちとこちまこちまこちとこちのこち程こち不こち足こち悽こち
てこち何こち方こちとこち由こちあこちくこち昇こちまこちすこち也こち。史こちのこち体こち既こち爰こち不こちまこちすこち。亦こち須こちのこち
赤こち浪こち小こち見こち以こち負こちさこちすこち也こち。亦こち改こち代こち地こち一こち使こち了こちとこちよりこち。幸こちハこち長こち

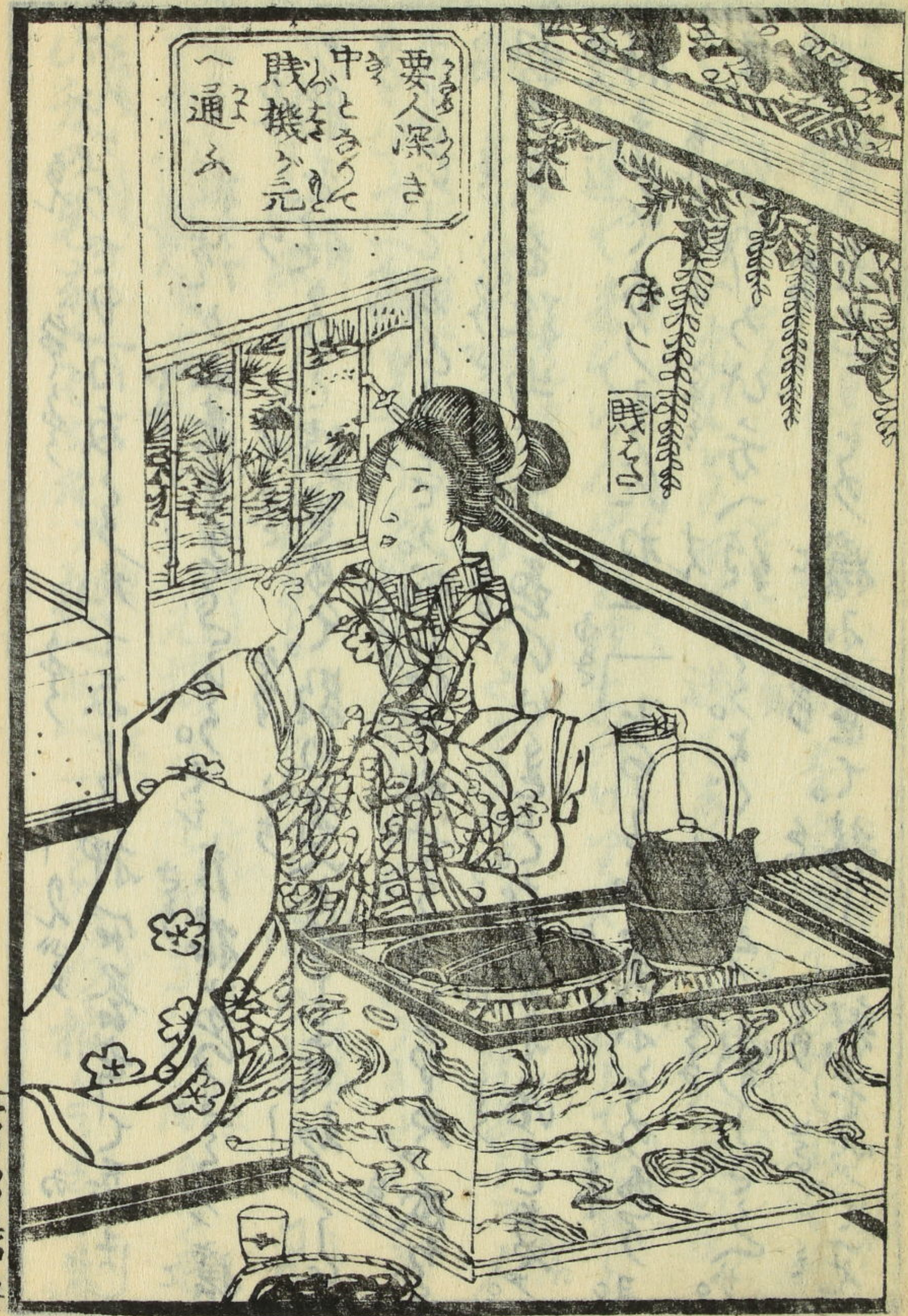
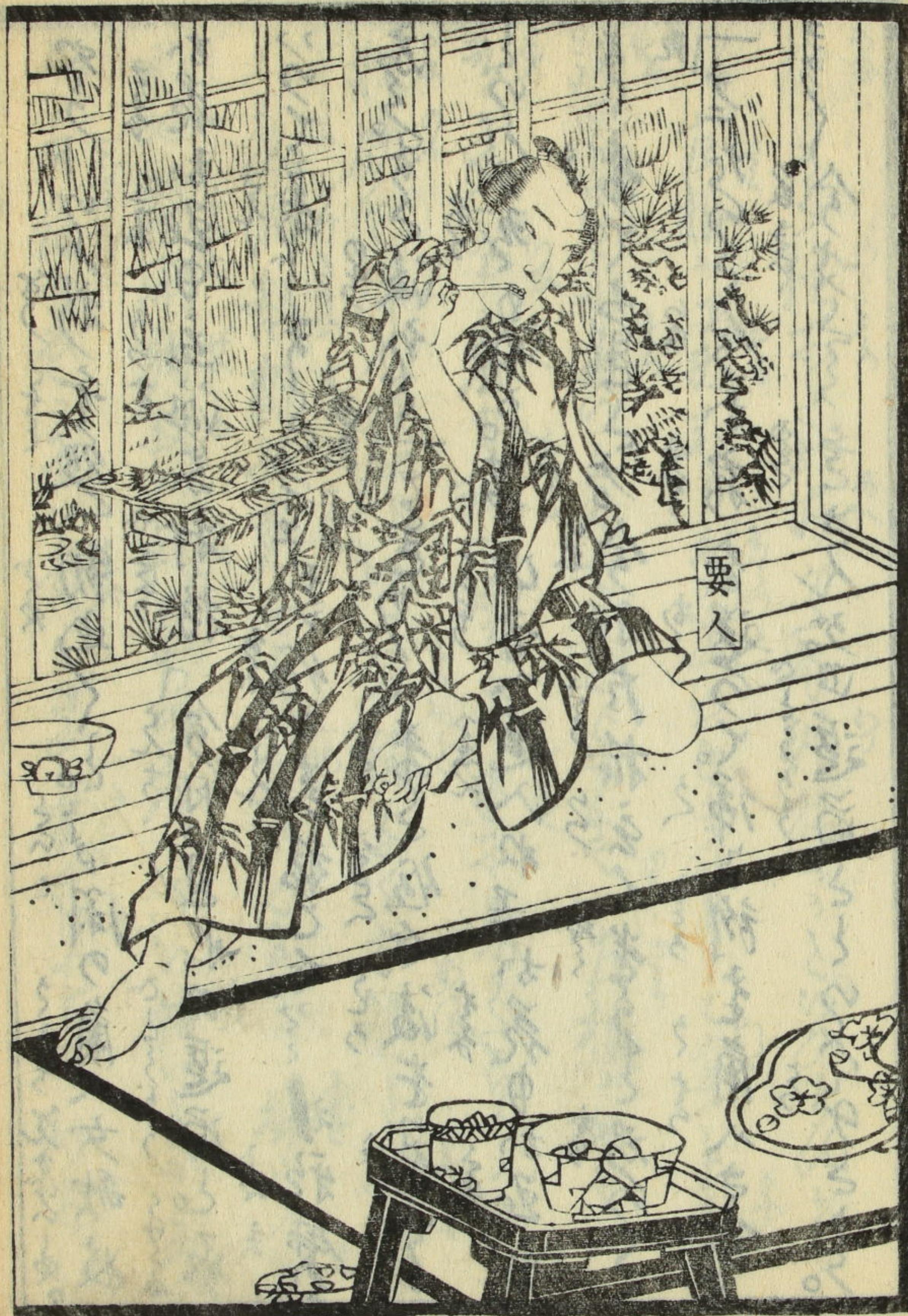
始こちらこちしこち由こち。稍こちとこち不こち使こちよこちくこち。今こちのこち全こちくこち勝こちりこちけこちしこちハこち史こち釋こちのこち欽こち
がこち大こちくこちとこちあこちるこち也こち。佛こちとこちまこちうこちんこち何こち指こちうこちしてこち元こちのこち身こちがこち不こち立こちたこち
んこちとこち一こち日こちかこちひこち結こちしこちとこちもこちとこち熟こちとこちあこちひこち也こち。志こち不こち友こち刀こち拵こちとこちて
とこちありこちとこちりこちとこち由こち。立こち刃こち出こち世こちハこち雅こちハこち王こち。腰こち不こち友こち刀こち拵こちとこちて
由こち。僅こち未こち福こち不こち繫こちがこちまこちすこち也こち。食こち又こち食こちハこちのこち浪こち人こち不こち常こちりこち由こち安こち
くこちあこちるこちとこち史こち史こちよりこち町こち不こち住こち居こちしこち也こち。氣こち未こち不こち送こちらこちずこち依こちあこちんこち
史こち不こち足こちらこちハこち何こちあこちるこちとこち。拵こち了こちあこちくこちてこち公こち悽こちらこちるこち也こち。身こち不こち足こちえこち
とこちもこち業こちハこちあこちらこちハこちせこちんこちとこちもこちうこちぐこち。亦こち能こち福こち氣こちのこち杖こちさこちくこち。

好む小うら。その妻あるお家小由。お家おれこの流り
の。衣裳い元来懐中乃具。まる烟糸入と煙管まで。
兵管時花を肯らして。のと糸糸やう小あんやと小つる
人毎小作達者くと。解刺せぬいあうらとと。爰にを
糸との屋一き。新抱あう糸山伴六。まご糸糸雄士
おまご。何ものふ小性も。殊小要人の下役あまご。相
小兜不入糸の。小奴があまご。き帚掃除庭の植木の
脇の菓也。玄屏ま小生らう小州心をつけて扱き持ら。

或の客のありと。水を汲ぐ。大を持。つる。夏
屋八百あく。客おぬの物。の志。又深つて
穿て来る。元来下女。下男。あまご。金貸やぬ。性
馬出。あて。箇旅の扱。あ。を。伴六。が。糸。あ。ま。
ま。の。世。俗。あ。く。物。ま。る。あ。ま。か。家。に。二。あ。ま。ご。の。小
る。み。独。身。の。の。不。自。由。と。衣。装。の。後。び。滌。ぎ。洗。濯。
下。女。の。あ。つ。け。ん。を。付。る。この。扱。小。伴。六。也。非。友。の。あ。れ。と
家。不。存。ま。た。と。こ。小。の。と。糸。糸。と。て。扱。僕。の。と。く。働。き。け。り

名の男が手引をして。此の所を究見おつけし。まは
ううい怖いおでその男の。逃てまはつて只一人復のま
まを連れて来て。いふゆを言あひけり。あ。殺して仕置と
威をうけし。判人のいふこと。まはつてあり。まはつて大
ううい方へ。いませうが。可也さうぢやア。あつません。子
「ううい成り。可也さうぢやア。あつません。子
ア。秋もあく。句引。光撮。ごを。指。末。後。周。り。の。を。
け方の宅。あんどぢやア。抱へ。か。」「と。いふ。何。指。ご。あつ。ま

せん。どの。中。百。あ。と。九。十。あ。と。押。合。各。を。て。指。は。し
ううい。相。流。が。出。来。ま。は。つ。て。い。ら。う。モ。レ。左。指。あ。つ。と。う。ア。攘
の。胸。を。握。ろ。と。言。定。め。て。駈。の。宅。へ。の。こ。を。知。ろ。と
ま。は。つ。て。い。ら。う。い。ま。ま。が。何。指。ご。ぬ。せ。う。子。と。い。ふ。ア。成。り
親の宅を。引出。へ。い。あ。ひ。け。ま。と。究。見。お。治。ま。ち。や。ア。
解。ま。り。や。あ。つ。ま。ん。ね。エ。」「その。ぢやア。実。小。の。あ。り。ま
ま。ア。何。あ。り。け。方。へ。何。ぢ。う。う。と。言。ろ。う。窮。く。と。い。ふ。サ。
何。あ。り。自。己。由。の。攘。小。を。て。精。く。秋。を。受。て。見



二五九

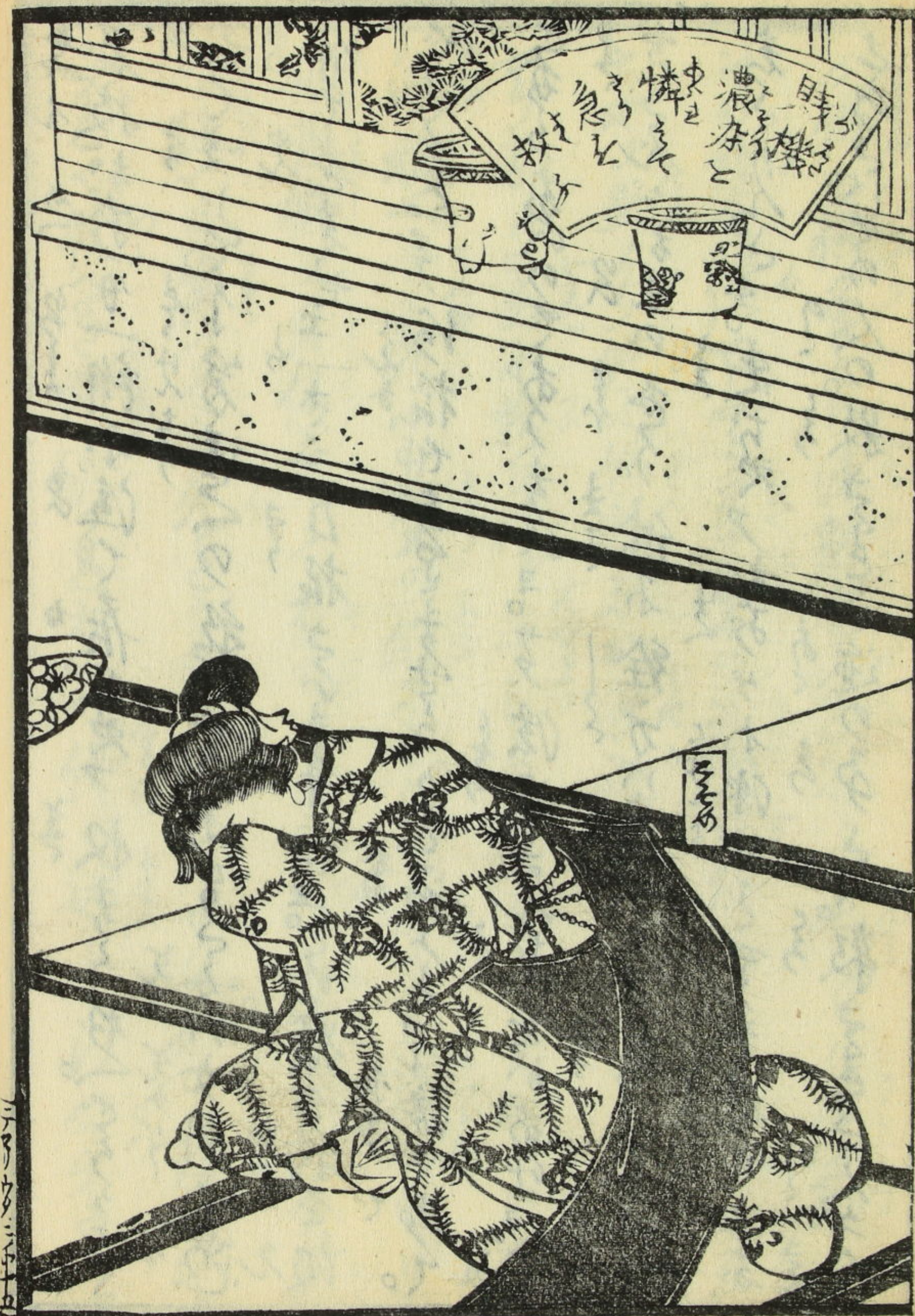
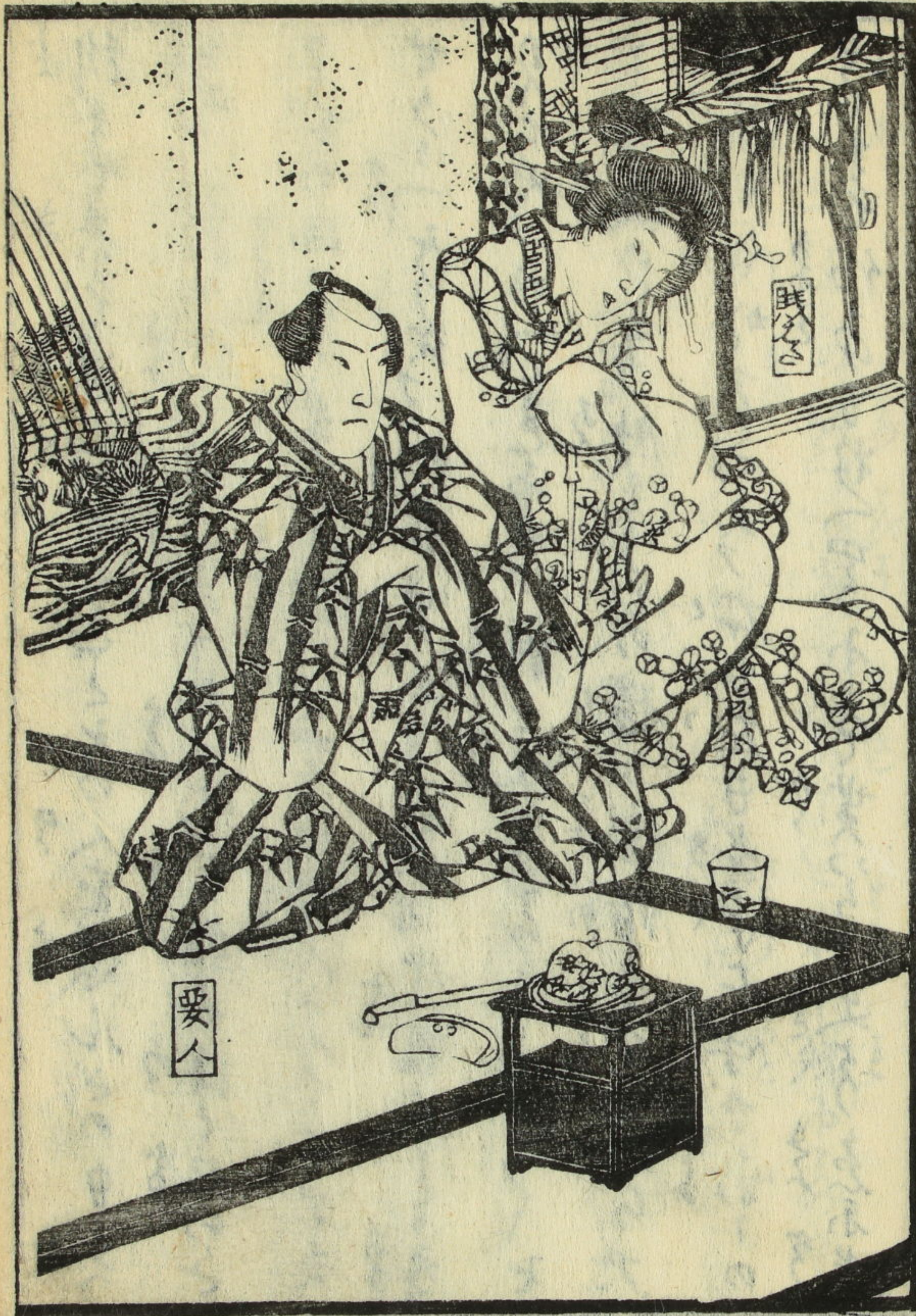
まの「^おまの」^いらふ^らぐ^ら出来^まあ^まわ^アで^まま^いで^途方^があ^る
 のサ。夫^ア何^もあ^らう^宅を^出て^まさ^らう^かく^ごと^有る^ごと
 を^會合^動して^ませ^ませ^エト^實小^憑心^しき^業勢^不法^深
 小^僕源^元に^がり^小任^せて^渠を^殺す。家^を出^て
 よ^と海^のと^淡あ^らう^小園^根と^有る^ぐま^とあ^らう
 あり。信^じま^らず^聖い^をを^掛き^或ひ^の紙^と發^ます。果^し
 き^果て^る業^勢あり

第四回

傍^お空^居る^秘秘^中。解^詞の^あつ^まを^世の^い途^一に
 お^あ根^の境^のる^大造^亦苦^号を^あと^ね。その^小源^元
 と^うの^人の^中。解^まり^のが^あア^あり^ませ^んう^子。左^根と^ああ
 根^をを^連て^出ま^らう。怖^い人^があ^らう。あ^らう^不迹^ると^ア
 不^まま^とね^エ。その^おあ^根の^お金^を百^両と^大胆^人
 どの^おひ^まま^いの^おア^とま^しの^途方^があ^らう^がま^いさん^と
 どの^お方^の。あ^らう^情あ^らの^をと^けま^さと^まあ^らア^法が^あ
 ま^まら^う。定^めて^左根^の中^とう^ら。在^まで^箇根^の中^とう^ら

兜兜のいへさの月生ふあつてさく春まゝさるえ
のちがさるうざア何れう秋うつまませう「はうあふ
何れさるいんう子使あう色間をおみまさるのヨ、い
聖く肩を揺つて「おあ振まア何れあふまゝと子眠
うアさつとのあふ。瞬中拘てありまゝさる彼怨へ移てか
休とあさる。法深さんの秋を吹て。南洋對てあふあ
つてまゝうと。かまふさるうう連てまゝこのふ何とせう馬
麻りいへ切実長の秋穢う急版の髪を吹て書え

眼を内きあつと息「イヤお振かひの中を覗いおど眼
い初この腸が先刻から沸うりけるハ「あせまゝと何ぞ
版が互まきさう工「何れ版を互れおど版くまてせ
大後ごううス「とるせア大後ごいまよこのサ。まごう
何れうしてあげさといの人のごあま「どの大後も「あ
や二通りの秋おアおへ。コウく法深さん怖う「あさん
あ「何れ何れをさるまを「何れ所う実大後。まア「気
を腹うりあふ付ん。肩己うりのを吹あせ工「何れど



新まを来て。連出してさきととの人を憑んどの由天
ち也アあいつ。何う子をささんか互ふ。そ根不深くあつこ
う。その幽霊が来て小深とやうを。恃んごんであてま
せうう。そり也ア何根ご。あう移ご。ち根あところ
んち也アね。さきも也ア移く伏ぐあらうヨ。まアくと
ア也ア後のことサ。胸まうとの懐が懐結と容子をからア
何根の気があつこ。まア右の左の差子を呼で。影の
けくまを何るの。ねんやうおとせ黄うらト史より急不基

老安を。この新く呼参て。粗のことと影。殊ふらうさ
井之川へ身を投まうとののをさぬ容子第一先赤とが
あまご。身一抱へて親方の。換へ元来大強ぎよりく。寄めて
氣の爲好まぐ。あまごのしる遠の。あの中不軽こつ。
その典身残の九十歳が百あまご大あまの史の人もも
ど。是非うけ度は不れ遠あいつ。親方不ゆさく左根
云て。二三日の物をねむと。笑てをよゆ怖うし。左根不
祓の懐とく知らむ。親判まを取とを公人との也ア大後

おのれ遠く美知縣新の沙汰小あると。親方海ません。
何れ物より積小の海ますや。計らひ考希小か。
ひやうん。當人の身のこと。私づらひ合まし。こと史より泣
伏ま深深を。老子の子舎つ。是を。伝実小助の
を。懸さめ。離枝を。大勢つ。刑さ。一入の。い。手
先。然て。後重あり。深深の。尙小。この。こと。を。笑。よ。を。耕と
と。と。逆と。海と。母と。の。壁。を。あ。き。き。と。深。さ。の。大。恩。あ。る。
親を。り。控。出。さ。る。ゆ。え。文。に。さ。る。言。の。義。を。及。古。小。に。せ。ど。と

あ。ん。ら。う。不。孝。の。罪。は。あ。り。あ。ら。う。怖。さ。凄。さ。の。り。ち。志。と。
一。途。小。涙。の。の。あ。を。あ。り。と。か。り。人。の。人。に。教。え。れ。う。
と。安。渡。り。さ。さ。さ。の。不。孝。の。報。い。や。今。さ。う。何。を。憑。と。せ。
浮。世。小。あ。ら。う。あ。さ。ま。で。一旦。死。お。と。と。ひ。の。か。後。の。孩
児。の。彼。人。の。胤。と。か。り。一。バ。死。う。み。て。私。を。さ。ら。ま。の。今。一。面。を
と。さ。つ。ん。と。さ。の。故。あ。る。小。安。渡。と。實。出。と。あ。ま。さ。て。い。教。え。ま。う
あ。も。あ。ら。う。柴。の。煙。と。と。あ。ら。う。あ。の。世。あ。て。若。由。あ。ら。は。る。こと
り。ぞ。あ。ら。ん。彼。を。希。う。妹。の。聲。と。あ。あ。ら。う。を。さ。さ。て。知

まて小伝切あつ、身不深て。概しけまどもあ人あくも
何を憑むまき。とけ時全く死を究めて、物教りてん泣
伏すのこま、ハ、海不月見てうて。かまうひしりのあま
濃深日今、ハ、冷方あ、秋ま小沈むうき苦勞を、
あまきめく人々小、懸さめらまの、あ楼小、一日二月
送るけり

謎唄三人娘第三編巻之中終

謎唄三人娘第三編巻之下

東都

松亭金水編次

第五回

あ人さきさの八街小、娘ひまき、浦あ通。雨ハ巨美の
化質を収めて、春ハさう小空、きじう。格子造りこの家多く。
廓小十あ盤利、の、者このま、く、安め、東の側ハ、
古の乃具、あひ、賣下竹細工吉井、越小、何でもか、で、
世の擇ど、十九文、稲木の壺屋、棧、向ま、ひ、珊瑚小、
世の擇ど、十九文、稲木の壺屋、棧、向ま、ひ、珊瑚小、

よしとが。陸お若考でございませ。何根おしと存ませんが。
あまの。の。おれ。こ。あ。る。香。あ。り。ま。せ。ま。ま。の。サ。ア。は。方。へ。入。り。ぬ。い。り。
先。小。ま。り。と。あ。ま。は。見。サ。ア。あ。ま。で。あ。ま。い。ま。ん。マ。ア。く。宅。が。さ。の。
あ。う。う。の。て。ら。う。コ。レ。サ。お。あ。が。入。ま。の。さ。う。う。世。を。方。へ。お。ん。よ。せ。
「ま。く。様。ひ。あ。ま。ん。た。の。様。さ。ら。ハ。お。才。子。う。う。こ。の。異。心。の。
ふ。ろ。く。精。を。出。し。あ。ま。さ。う。マ。ア。目。的。ら。う。し。ゆ。せ。こ。ア。二。階。
が。あ。り。ご。ざ。い。ま。ま。と。然。し。と。風。ゆ。ま。ち。う。ま。ん。ろ。う。ん。せ。ハ。モ。ウ。
ひ。ち。目。が。ま。の。の。お。ら。う。く。と。わ。ま。ま。を。う。ら。ね。く。異。心。を。う。ん。じ。て。ト

ふろく。二階一通して茶煙糸を志を扇を副て持来り。華八
ら。ま。の。と。今。湯。へ。糸。の。こ。と。や。ま。さ。う。う。一。服。や。あ。ま。て。下。さ。
ま。う。の。モ。ウ。速。に。帰。り。ま。せ。う。二。三。夜。振。る。く。次。で。も。あ。り。
ま。ア。右。も。左。も。お。あ。の。糸。し。て。ま。う。う。直。格。ふ。ま。て。貴。ろ。う。
列。條。の。糸。い。し。押。付。が。ま。う。う。の。ゆ。の。も。実。に。氣。の。毒。と
が。何。箇。格。々。の。よ。り。け。さ。ト。流。條。が。次。才。を。精。く。刺。
し。一。處。で。是。非。必。信。を。て。見。も。ま。う。く。と。存。心。友。と。あ。ふ。
の。う。今。伴。者。何。が。宅。へ。参。り。て。也。語。を。ま。り。也。仔。細。に。話。が。

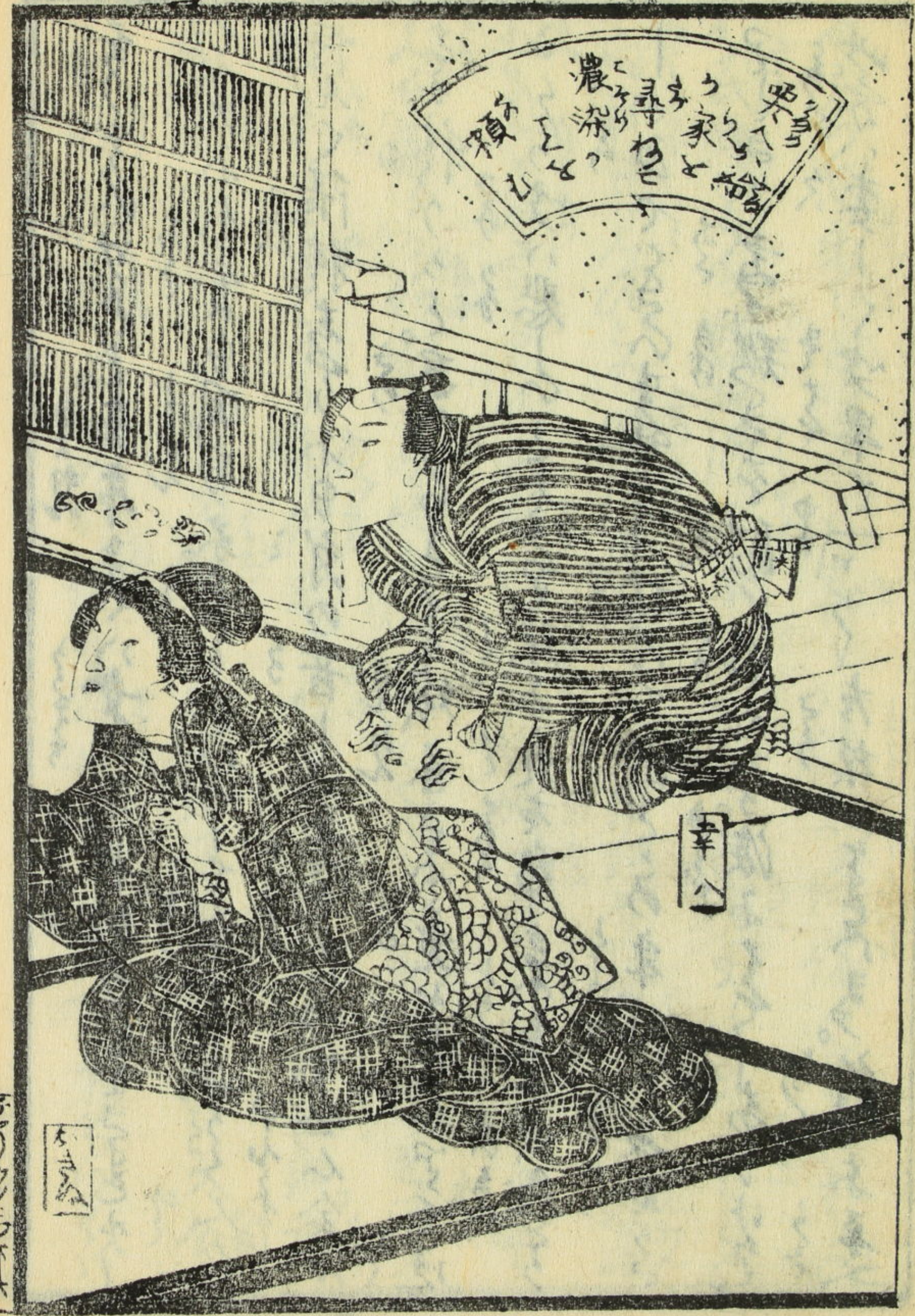
且、いひつゝ、心付、一、救う、推不、かまう、し、と、筆、
 小、向、う、の、ま、は、ま、の、今、は、伸、る、者、を、中、の、私、が、為、の、
 才、を、推、し、と、え、ん、ま、は、ま、の、神、不、存、の、
 い、ま、を、う、ち、あ、る、を、と、理、智、と、中、の、お、を、し、ま、
 と、先、以、中、の、風、の、使、う、不、使、う、と、
 不、測、不、の、
 せ、と、ま、が、丸、う、お、あ、の、神、さ、ん、お、家、が、
 三ツツ、下四

何、大、の、神、も、あ、る、ま、は、け、ま、ど、何、招、か、
 主、後、一、向、往、方、い、る、ま、は、ま、大、の、
 小、物、イ、由、の、神、う、び、方、不、を、ま、
 中、を、う、ち、あ、る、と、何、ぞ、と、い、ん、と、
 末、後、の、神、も、あ、る、ま、は、ま、の、
 と、う、て、誰、の、心、ま、は、ま、の、ま、は、ま、
 由、り、て、ま、は、ま、の、ま、は、ま、の、ま、は、ま、

おちのて ^{つら}あくと ^いううて ^と飛ぶ ^まい ^ま疎不 ^い燒 ^い侍 ^いと ^いま ^いん
香 ^い氏 ^い由 ^いご ^いう ^いち ^い鼓 ^いの ^い陣 ^い不 ^い縁 ^い付 ^いと ^いい ^い安 ^い止 ^いし ^いと ^い安 ^い止 ^いし ^いと ^い安 ^い止 ^いし
一向 ^い新 ^い由 ^いご ^いう ^いち ^い鼓 ^いの ^い陣 ^い不 ^い縁 ^い付 ^いと ^いい ^い安 ^い止 ^いし ^いと ^い安 ^い止 ^いし ^いと ^い安 ^い止 ^いし
お ^いあ ^い七 ^い身 ^いと ^いと ^い中 ^い次 ^いと ^い今 ^いの ^いお ^い食 ^いの ^い死 ^い他 ^いで ^い也 ^い出 ^い来 ^いま ^いう ^いと ^いお
入 ^いを ^い飛 ^いる ^いう ^いの ^いを ^いま ^いら ^い以 ^い由 ^い不 ^い身 ^いし ^いと ^いと ^い也 ^い就 ^い兄 ^い牙 ^いを ^い後 ^いお
あ ^いく ^い光 ^いを ^い出 ^いせ ^いう ^いう ^い者 ^い伝 ^いあ ^い附 ^いて ^い由 ^い書 ^いい ^い日 ^いの ^いと ^い成 ^い忘
ま ^いる ^い間 ^いい ^いご ^いう ^いご ^いう ^いま ^いせ ^いん ^いが ^い死 ^いを ^いい ^いま ^いし ^いに ^い理 ^いが ^い変 ^いを ^いぬ ^いと ^いう ^い今
と ^いを ^い初 ^いし ^いて ^い食 ^いさ ^いぬ ^いの ^いお ^い後 ^いで ^い何 ^い振 ^いう ^い人 ^い並 ^いの ^いや ^い不 ^いあ ^いり ^いて ^いい

三ノ下

を ^いう ^いま ^いは ^いけ ^いし ^いと ^いと ^い去 ^い年 ^いま ^いご ^いハ ^い幸 ^い八 ^い不 ^い長 ^い炊 ^いら ^いひ ^いを ^いさ ^いと ^いし ^いり
て ^い実 ^い不 ^い乞 ^い食 ^い由 ^い同 ^いお ^いあ ^い書 ^いを ^いい ^いて ^い居 ^いま ^いし ^いと ^いう ^い人 ^いを
持 ^いん ^いで ^い陪 ^い侍 ^いあ ^いり ^いお ^いの ^い身 ^いの ^い苦 ^いし ^いさ ^い不 ^い空 ^い云 ^いり ^いて ^いと ^いん ^い食 ^い力
さ ^いる ^い積 ^いり ^いう ^いと ^いお ^いり ^いら ^いま ^いる ^いう ^い城 ^いを ^いさ ^い不 ^い竟 ^いと ^いと ^いと ^いあ ^いり ^いて ^いは
る ^いら ^いち ^い空 ^いに ^い悲 ^いし ^いと ^いと ^いう ^い也 ^い然 ^い不 ^い竟 ^いを ^い知 ^いす ^い不 ^いあ ^いの ^い天 ^い難 ^いご ^いう
し ^いと ^いび ^いて ^いご ^いう ^いの ^いま ^いせ ^いら ^いト ^い描 ^いん ^いて ^いと ^いど ^いの ^い来 ^い月 ^いの ^い長 ^い物 ^いご ^いう
ア ^いア ^いさ ^い書 ^い不 ^い終 ^いき ^いを ^い副 ^いと ^いわ ^いち ^いる ^い涙 ^い不 ^いも ^いく ^いあ ^いり ^いけ ^いり
此 ^い方 ^いの ^い妻 ^いし ^いく ^い実 ^い果 ^いト ^い可 ^いく ^い左 ^い振 ^いう ^いと ^いま ^いま ^いア ^い特 ^いく ^い不 ^い妻 ^いア



苦勞。故うろた振と知つてあら。堂ういカ不あるとも。な
とらうの不詮方うあひ。ア夫ハ死ご子の年今うまノ由
復うぬけ。吾侪ハ信く木の蔭中。世田要人といひ
ます。夫と縁でか家を其ひと世不替て他の場のが
氏さん。もまこおれ。とあつて。出合むるが。何れい。て
夫を弟が。一件の事。ア実不妻。然先刻のいある物取
あ。ア。遠ひ移くとかりいけと。新とい人あ。ゆあり。まじ
ま。不持へ。あ。う。中。の。事。知。ま。の。せ。う。ヨ。た。振。し。

新が死ごもの。活返るといふ移をも移く。ア。ア。右由左
由深深を請て。おあの方を世活を。子を生。い。兵
あ。の。事。を。弟。う。追。若。ど。ア。伯。初。の。事。い。ど。が。が。
あ。て。見。ア。お。互。不。適。と。つ。この。ま。い。兄。弟。縁。若。こ。と。う。
後。ハ。信。く。不。カ。不。あ。ひ。う。ろ。あ。う。ま。う。ろ。お。澄。び。く。て。を。又
う。ま。不。替。て。日。進。く。お。家。の。以。方。へ。裁。さ。う。が。ま。う。お。あ
方。の。え。あ。り。て。吾。侪。の。方。今。あ。り。か。ま。ま。を。振。く。う。い。地
の。場。の。か。及。ま。ん。不。の。進。う。い。ま。地。の。吾。侪。が。扱。い。せ。う。の。何

いふ及たねが。實小こま由不測の因縁心後いゆ幸共
一併を母見才とあつてお呉未せ上「こまはく」お入まん
私と由が身のとを。まご篤くうとく中ません。こま由
不測未因縁也。か猶由苦方をいへまこ「何う
振りの持んど影。マア左由右由こまはくト初め
逢一人あがら。かる好才と知るういん小隔つる方由
あく。まごより要人の初教を。まごより初対面の
ある一をぞあふける。

第六回

あふ相生の吳玉屋少ハ女見深深がんえんを。振め
のあし、いゆとこ。そ処等へ出るものあえんと男女小い
子で存せおけまごさる不居ままご初縁の獲う夜小え
お重刻まごとまごごもんえん。かくくハ何地初けん。家
内儀不喋き。まご被方け方と探せご由。教ご不あうま
まごと小小深決のまご青よりいんをくいんえまごいん
より。後あまのまご挿ハ狂免のまご。依て道初合初の人

ゆきつ子の重なり来てもふらふらのあまらや。小深なまき
はえさきんかひて寝あはれん。亡命しつるのあまら
居るの酒度や積金を調べてるよといふも。あまら成
と人の間へ来ても。盗人の障ありと云ふに。あまら
らんとも。法深が子舎小あまらしてるよとて。撫むる容
子もあまら。被あまらつゝ金銀を調べてるも。小留せ金
百あまら。を懐箱へ。いさあまら。うら。い。えさきん。きん。
い世間のあまら。小差りも。彼小深次といふ。あまら。あまら。
まきん。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。

つと怒りの面を。陣家のあまら。麻はまき。小留せよ。あまら。
もあまら。あまら。育つて。あまら。を今まら。小留。あまら。あまら。
あまら。小留の申小持。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。
あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。あまら。

あまらあまらあまら

て
多かたもの。あきやとひきと見まのん不。まうし
ぞくぞくつゝあきとひき
冊紙札の下小丸めてあつとま由女児がまきとの波
残りあつと懐くく。引出して燐燭の美を掃きうた
堀より。いんまぶる紙小何せん細くまてあつとけるを。
とらあげいんふ

かひのふかき

男相様まが産屋とゆひさつと別々く。まに
ひふ秋のあふ深くつゝま由あきやのまきとぞあひ

いんね株のあつとまきつゝ葉の久し例ふあやうと
まゆの産屋産屋不二世ゆと世ゆきはの世ゆひて。まに
あきと女房かこころま由のらうとあき。秋のまき
まゆの。いんあつと由九十九髪尾花が末の友まきつゝ
とま不あふまを死とげん。よか地土の小産のらち虎
依ま産屋にまゆとまゆ。女まとよまれゆるあつとま
撰くゆるらん。ま由不あふ産屋とよ。むあ末然ひ
ゆうままゆの。ままとま層くゆるとゆ。滋深がまみ
滋まえあつとまを。結まをの。あまうと

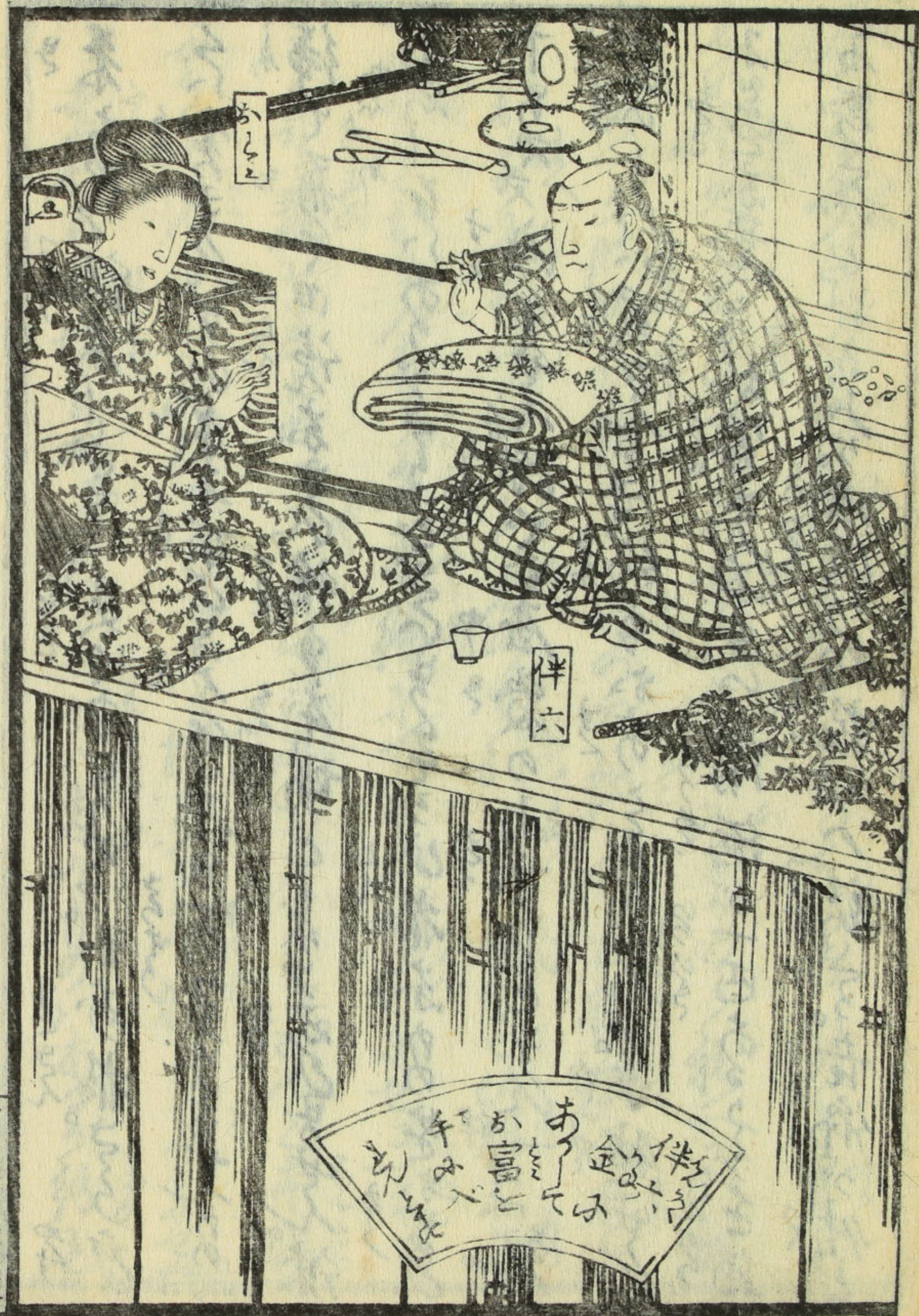
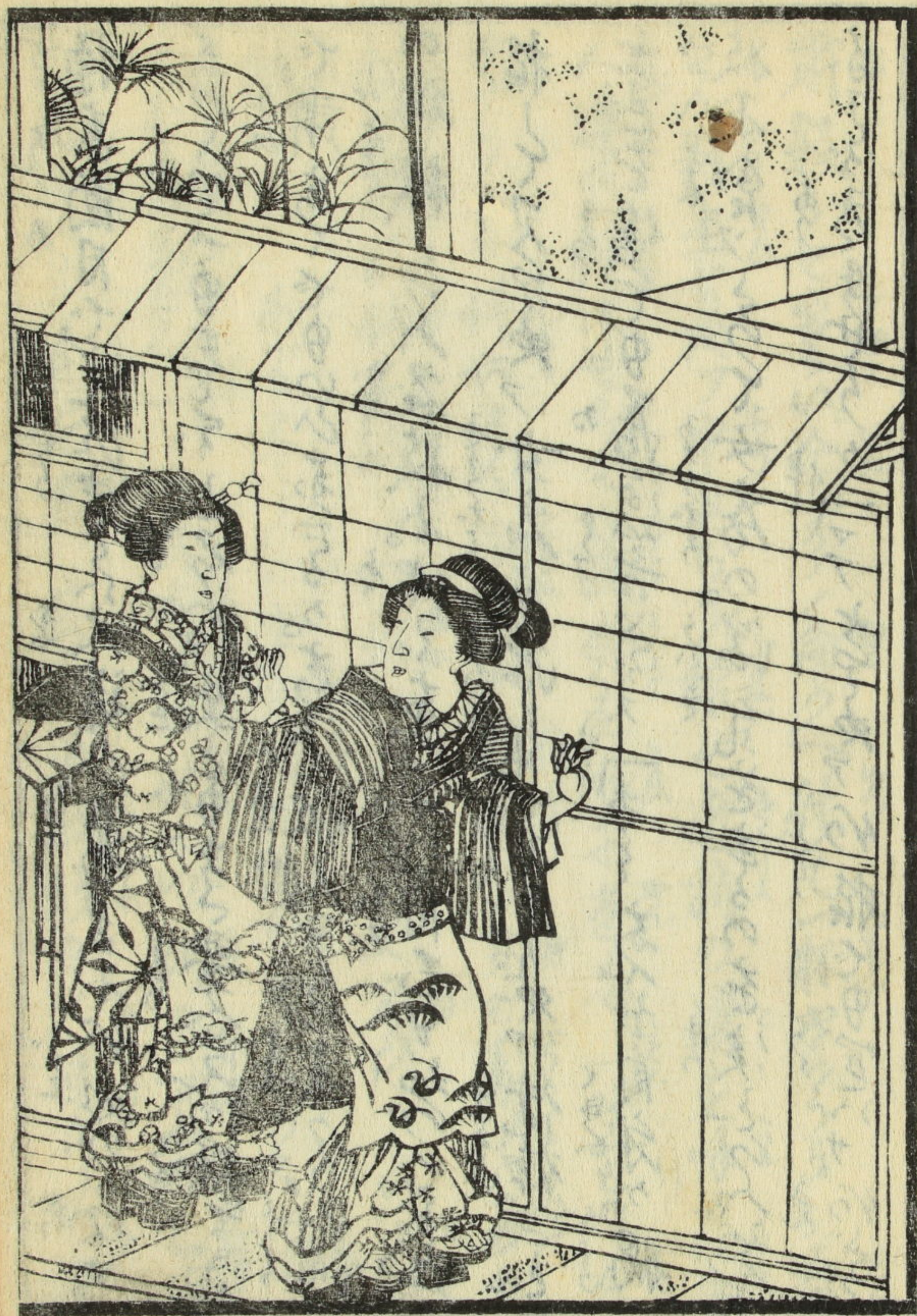
とあを真不よと下ふ。か麻ハ眉をうら類舞めア見た

傍にた振をあらう。小深はゆへえぬら。且ねを振め
あの男とて命ごと疑ひする。その女ア書然のみあらう。
何故の法深く小深と。さうしてゆへえの苦と。恨ん小
あつて長そが。その色紙をうらへてまゝを御小ね遠
あの先頃も此をうらへてあつてゆへえの苦と。まゝ子
恨ごと御新しと判さあへてゆへえの苦と。まゝ子
つゝんとき七夕さあふおひごとをまてあがまゝゆへえの
恨んと百人一月ふゆあことさうら。ソイまて笑せとを笑

小更へび振まことをまゝとあらう。まゝ小ねゆへえ
あの男、あがら御不測あひこの色紙程又まはせ
まうけをまあふ。あつて何振ゆへえ。小首傾けさあ
小考するその動へ来る後あまのゆへえをまゝとあらう。まゝ子
いそ方のゆへえ。も遠ひあつてまゝとあらう。まゝ子
人もあつて御も小深はゆへえとあらう。まゝ子
ゆへえ。在去を為移るづまゝとあらう。まゝ子
渠が毛小。あつてゆへえとあらう。まゝ子

達くく子探し人曾ノ此方に志見せりけりて其の
活柄ハ休歇法由こ是よりこ一箇月の日殺さし神
七月樹この初葉由風不。さそいきて殺す時長とあれ
何方の多うさ儀をある不。別て空を冷のいそ殺す
ぶが島の北向と。池を吹来る風迎て連の枯葉の残る
ある。その初葉さし由初葉より。表の滑る尾形程とあり
人。類冠せしを拭き。さそいきて運入る人障子ある
まばりく風不。犬神の灰のものと殺すを主人のた氏と

て
身を脱解し「ヨメ飛振ど。早くその障子をあめてお
呉々休せんうよく入るまのこ子。何とかなきくあつこ
あはアさるません」今日ハ時方とくさるさるが。
全体こ一荘去法一の多てふと素て居るウ。今替へ
こもまを来るのふまを移くう手杖を執冠の
とせらるし「左折をこまをせらう」宅の月さくあま
毛こまをまきう「トキニ今日ハ誰か居るぞ子」女ハ
今か湯へまかりしこ「ア、そ是ぢやう下度宜例不



三ツノミヤノ

伴六
あき
お富
年み
お

おりのを可嘆が。自己の事人小唯と云ふ。世に
さしむる百友生。世活買ふ出ん。世を治る
及さん金づく。世を治る。世を治る。世を治る。
未活券ごころ。世活を。世を治る。世を治る。
世を治る。世を治る。世を治る。世を治る。
世を治る。世を治る。世を治る。世を治る。

世頃二人娘第三編卷之二

